



Takayoshi Murakami

代表取締役社長 村上 尊由

社員の皆さん、そして全国の代理店の皆様、日頃より多大なるご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。このたびefismが創刊されるにあたり、皆様と共に描いていきたい未来について、お話しさせていただきます。

デザインから「快適性」へ、 クレームと未来環境への危機感から 築いた事業の原点

当社は、創業者である父が立ち上げた建築設計事務所からスタートしました。当時はデザインに特化し、意匠性の高い建築物を手がけておりましたが、あるとき、住宅のオーナー様から「デザインはいいけれど、夏は暑く、冬は寒くて快適ではない」というお声をいただきました。しかし、多少暑かろう寒かろうでも、それ以上に感動が与えられる建築を目指していたのです。

そのような折に、2004年（平成16年）に地球温暖化問題をテーマとするシンポジウムに参加し、深刻化する地球環境の実情を目の当たりにしました。「このままでは自分の子どもたちが社会に出る頃には地球が大変なことになる」と強い危機感を抱き、翌日朝礼の



会長の若かりし頃（1992年撮影）

場で社員の皆さんに想いを共有しました。

このとき、地球環境に配慮した建築を創造する設計事務所を目指すことを決意し、人々の幸せに直結する「快適性」や「環境への配慮」こそが大切であると痛感したのです。この想いがエコファクトリー事業の原点思想であり、やがて省エネルギー効果の高い輻射



新社屋（2023年撮影）

式空調システムecowin(エコウィン)が誕生、「環境と人にやさしいモノづくり」メーカーへと変革していきました。

受け継ぐ「共尊共生の精神」を、 水、そして働き方の分野へ

創業者が大切にしてきた「環境と人への共尊共生」。意匠設計から培われてきた、柔らかな価値を世の中に創造する力と、幸せのあり方をデザインする意志を受け継ぎ、私自身の代で具現化するために掲げたのが、「エコロジーをデザインする」というスローガンです。

この「共尊共生の精神」を、従来の空調・建築分野だけでなく、さらに社会へ広げていきたいと考えています。その想いから、電力を使わない新たな雨水処理という「水処理」の分野へも事業領域を拡大しました。

そしてもう一つ、大切にしているのは、「社員の働き方」です。2023年頃に新社屋「地球倫理体現館 SDGs LABO」を建設したことを機に、給与規定や就業規則、福利厚生の面まで、社内規定を大幅に改定しました。

会長の時代は創業者の強いリーダーシップで進んできましたが、これからは社員の皆さんからのアイデアも事業の推進力に換えていきたいと考えています。今年は「創造力」と「体系力」をテーマに、生成AIなども活用しつつ、チームで生産性向上を図る組織を目指しています。

地域にエコロジーを届ける 「アンバサダー」

社内の仲間と共に、私がパートナーとして非常に重要だと考えているのが、全国の代理店の皆様です。我々の事業活動に共感いただいた皆様は、単なる「販

売パートナー」という枠組みを超えた存在です。

それぞれの地域に深く根差し、ecowinブランドの「アンバサダー」であってほしい。ecowinの由来は、「ecoな風を発(おこ)す、ecoで勝つ!」の意味が込められています。地域ごとに異なる特性や課題を、ぜひ私たちと一緒に考えて、解決に向けて提案していただきたいと思います。地元で愛されるecowin代理店として、次世代の子どもたちに豊かな環境を守り繋げるためにも共に事業推進いただければ、これほど心強いことはありません。

全代理店の皆様の成功が我が社の成功であり、誇りを持って活動いただけるよう、私たちもしっかりと支援させていただきながら、連携を深めてまいります。

小さな魚が集い、 チームとして大きな未来を描く

私が描く理想の姿は、『スイミー』の物語のように、小さな魚たちが集まって1つの大きな魚を形成する協力型ネットワークです。メーカーである当社が単独で大きな魚になるのではなく、代理店の皆様、製造パートナーの皆様、そして社員一人ひとりが同じ方向を向き、調和を成してそれぞれの場で力を発揮することで、全体として大きな力を生み出していく。それが「チームエコウィン」のありたい姿です。

「美しい地球を未来の子どもたちへ」そして「エコロジーをデザインする」。この二大スローガンを胸に、皆様と共に未来を創造していきたいと強く願っています。今後ともよろしく願いいたします。



村上社長と村上会長

図解でわかる! 今さら聞けない『ecowin』のキホン

脱炭素時代の新常識、輻射式。エアコンとの決定的な違いと、営業時のポイントを開発段階から携わっている小島常務が紹介します。



常務取締役
おしま しげき
小島 茂樹さん

なぜ今、輻射式なのか

今、空調業界には追い風が吹いています。脱炭素社会への移行に加え、国が「令和17年までに小中学校体育館の空調設置率を90%にする」という目標を掲げているからです。このチャンスを掴むためには、基礎を固め、自信を持って提案できることが不可欠。営業の現場ですぐに使える、ecowinについての知識をお話します。



01 「空気を暖める」と「空間を暖める」の違い

よくある質問「エアコンとの違い」▶▶▶3つの熱の伝わり方を理解しましょう

対流
エアコン

風(空気)に乗せて熱を運ぶ。

伝導
床暖房

触れている物から熱が伝わる。

輻射
ecowin

遠赤外線で直接熱が届く(太陽や焚き火と同じ)。

👉 エアコンは「**空気**」を暖めるため、暖かい空気は上に行き、足元は寒いままという**ムラ**ができがちです。一方、輻射式のecowinは「**遠赤外線**」を使うため**均一に空間が暖まります**。

営業POINT

お客様には「日向ぼっこのポカポカ感と同じです」と伝えましょう。ecowinは、**床・壁・天井そのものの温度を調整**します。

冬

太陽のようにポカポカ暖かい。

夏

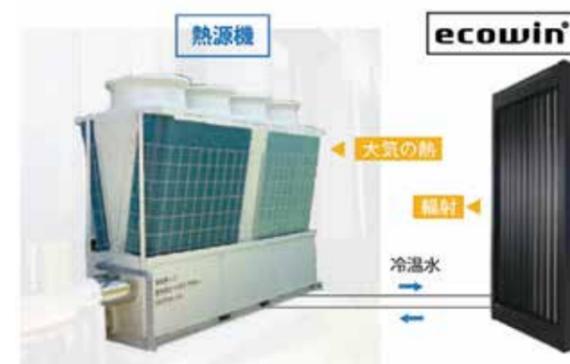
鍾乳洞やトンネルに入ったときのような、ひんやりとした涼しさ。

「風がない」からホコリも舞わず、音も静か。さらに、体感温度に直接働きかけるため、エアコンより設定温度を控えめにしても快適です。これが「**約3割の省エネ**」につながるのです。

02 2つの「ecowin」の使い分け

2つの主力製品をお客様のニーズに合わせて提案

① ecowinパネル(冷温水式)



仕組み 外にある機械で作った冷水・温水をパネルに循環させる(2007年開発)。
特長 「完全無風」で「無音」。
提案先 高齢者施設、図書館など、「わずかな風や音もNG」な場所。
注意点 専用の機械や配管が必要なため、コストは高め。

② ecowinハイブリッド(冷媒ガス式)



仕組み 「エアコン」と合体させた独自技術(2013年開発)。
特長 「圧倒的コストダウン」と「高性能」。
提案先 学校、工場、福祉施設、一般住宅まで。
強み 対流だけでは不得手な大空間の冷暖房ができ、避難所整備の観点からも話題。特に温度ムラのなさに強く、他社にはない武器に。

03 代理店の皆様が、今狙うべきターゲットはココ!

今すぐアプローチしてほしい場所

01
自治体の「未設置」小中学校体育館

設置状況リスト

文科省のHPにある「設置状況リスト」をチェックしてください。未設置の自治体には、実績豊富な「ハイブリッド」が刺さりやすい。

02
「脱炭素」需要がある工場

「CO2削減」は企業の急務。省エネ性能が高いecowinは、企業の課題解決になります。

03
「底冷え」に悩む住宅や施設

寒い地域では、灯油を熱源とした暖房が主流でしたが、ecowinなら電気(ヒートポンプ)で効率よく暖房できます。

04 選ばれる代理店になるために

皆様には「現場対応力」を身につけていただきたいと考えます。設置現場には、独自のルールや厳しい上下関係があります。ただ見積もりを出すだけでなく、**現場の空気を読み、気持ちよく仕事ができる「調整能力」こそが信頼につながります**。皆様こそが、ecowinを届ける「顔」です。私たちが全力でサポートし、共に成長し続けたいと願っています。

現場での振る舞いチェックリスト

- 現場監督や職人さんへのコミュニケーション
- 搬入時の細やかな配慮
- 業界の慣習や技術的な知見を理解する姿勢